

平成 31 年度入学試験問題（前期日程）  
小論文（中等教育教員養成課程 社会科専攻）  
出題の意図

本問題は、佐々木毅『民主主義という不思議な仕組み』（ちくまプリマー、新書 064、2007 年 8 月初版第 1 刷、2012 年 10 月初版第 9 刷）からの出題である。本文章は、21 世紀の日本と世界を創るためには、政治や社会とどのように関わっていけばよいのか、政治の難しい課題に対しては、どこから取り組めばよいのかなどの点について、著者の基本的な考えを述べたものである。分量的にやや多いという印象を与えるかもしれない。しかし、具体例を示しつつ丁寧に論旨を展開し、本文自体も平明なものであるため、一気に読み進めることが可能な文章といえる。

問 1 は、本文章の軸となっている著者の基本的な考え方を問うもので、的確に論旨を把握する理解力と、それらを 400 字以内で説明する文章構成力を求めた設問である。このため、著者が提案する日本社会の意識や仕組みの大改革とはどのような内容なのか、これを文章全体の主旨に照らし把握できていることがポイントとなる。

問 2 は、現代社会が抱える問題について、受験生の基本的な社会認識を問うとともに、これを 800 字以内で説明する文章構成力を求めた設問である。これには、まず、「グローバル化に伴う格差」と「環境・資源問題」のそれぞれについて、的確な事例に基づき説明していること、次に、それらが地球規模の問題としてなぜ解決すべき課題であるのかを具体的に述べていること、などがポイントとなる。

問 3 は、著者が提案する 21 世紀型社会のあり方を踏まえた上で、著者の主張に対し受験生自らの考えを 600 字以内で明解に述べるよう求めた設問である。ここでは、文章の構成力・表現力・記述力や、文章全体の説得力などを総合的に見ることを意図している。